

あさか埋文レポート

Vol.21

発行日：令和7年3月8日

発行：朝霞市教育委員会 文化財課

埋蔵文化財最新発掘調査情報

◆朝霞市では、現在70か所の遺跡が存在しています。

川や緑が多く都心にも近い朝霞市においては、宅地造成やマンション建設など大規模開発工事が多いため、記録保存のための発掘調査が数多く行われています。そのなかで、最新の調査成果をお伝えします。

にんべ・はけいせき 人部・峽遺跡第18・19・20地点

第18地点

調査地：朝霞市宮戸四丁目地内

期間：令和6年2月20日～8月21日

調査面積：412.20㎡

第19地点

調査地：朝霞市宮戸四丁目地内

期間：令和6年2月19日～7月27日

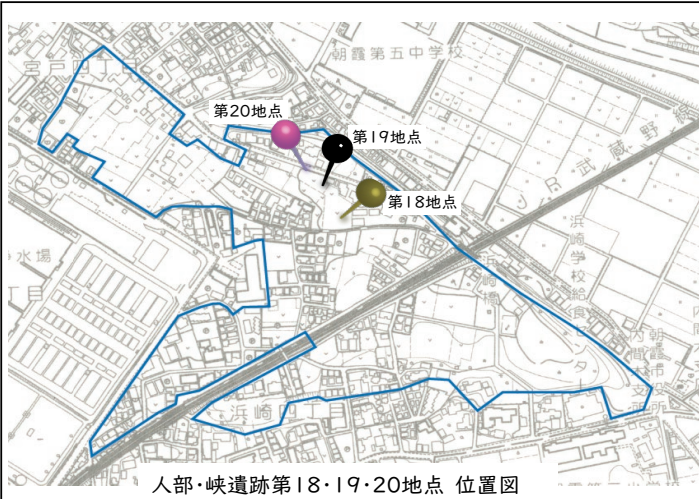
調査面積：449.66㎡

第20地点

調査地：朝霞市宮戸四丁目地内

期間：令和6年6月11日～7月25日

調査面積：38.26㎡



人部・峽遺跡第18・19・20地点 位置図

第18地点

◆今回の調査では、古墳の周濠2基・住居跡7軒・溝状遺構5条・土坑4基・ピット等が確認され、遺物は、縄文土器・弥生土器・土師器・陶磁器・土製品等が出土しました。

住居跡は、7軒全て出土した遺物から、弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡と考えられ、うち1軒からは土製の勾玉が出土しています。

2基確認された古墳の周濠は、1基が周濠幅約3～4m、もう1基が約1.2m前後を測り、検出状況から2基とも円墳と考えられます。しかし、2基とも遺物の出土がなかったため詳しい時期は不明となります。

第20地点

◆今回の調査では、古墳の周濠1基・住居跡4軒・溝状遺構2条・ピット等が確認され、遺物は、縄文土器・普通円筒埴輪・朝顔形円筒埴輪・形象埴輪・土師器・陶磁器等が出土しました。

住居跡は、1軒は19地点からの続きであり、古墳時代前期の住居跡ですが、他3軒は、出土遺物もなく詳細は不明です。

古墳の周濠は、19地点で検出した円墳の続きと考えられ、同様に周濠内から埴輪が出土しています。

第19地点

◆今回の調査では、古墳の周濠1基・住居跡2軒・溝状遺構3条等が確認され、遺物は、縄文土器・土師器・須恵器・陶磁器・普通円筒埴輪・朝顔形円筒埴輪・形象埴輪・石器等が出土しました。

住居跡は、2軒とも出土した遺物から、古墳時代前期の住居跡と考えられ、うち1軒は炭化材や焼土が多く含み、焼失住居の可能性があります。第20地点で残りの部分が確認されています。

古墳の周濠は、調査範囲が限定されたこと、また後世の掘削を激しく受けていた（かく乱）ことから詳細把握が難しい状況でしたが、残存していた範囲から周濠幅約8～12mを測り、内径約30mの円墳と考えられます。特筆すべき点として、現在までの発掘調査から内間木古墳群内では約20基程度、古墳の存在が確認されていますが、今回初めて周濠内から古墳に伴う埴輪が出土しました。

出土した埴輪は、普通円筒埴輪・朝顔形円筒埴輪をはじめ、人物・馬・家・蓋（きぬがさ）・翳（さしば）・靱（とも）・靱（ゆき）・大刀・矛等といった多岐にわたる形象埴輪の破片となっています。中でも人物埴輪の中で、市内初となる跪く（ひざまずく）埴輪の胴部下半が出土するなど、非常に有益かつ貴重な調査結果を得ることができましたが、上述のとおり非常にかく乱が激しかったため完形品は普通円筒埴輪のみで、あとは破片のみでした。

しかし、出土状況から未調査区にもまだ数多くの埴輪が眠っていると考えられ、今後の発掘調査次第では、新たな内間木古墳群の歴史が解明される可能性があります。



出土した埴輪の種類の一例（左から普通円筒埴輪・朝顔形円筒埴輪・蓋形埴輪・翳形埴輪・靱形埴輪・靱形埴輪・大刀形埴輪・馬形埴輪）

